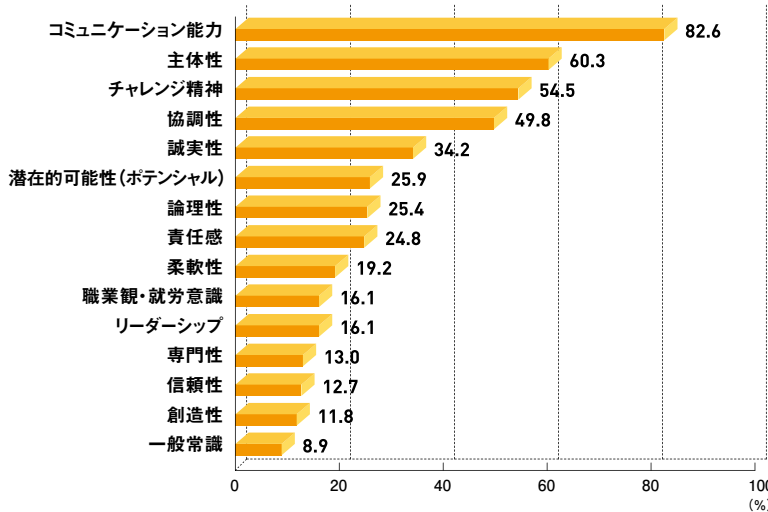


# DATA 01

自分なりのキャリアを築くために  
**雇用と働く人**  
の実態を知っておこう

## 企業は「コミュニケーション能力」「主体性」を重視

### ● 企業の求める人材

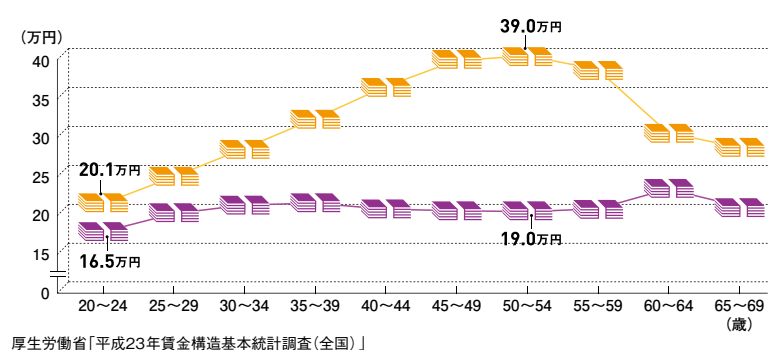


日本経済団体連合会「新卒採用(2012年4月入社対象)に関するアンケート調査結果」(24項目から5つ回答/上位15項目を抜粋)

大学等新卒者の採用において企業が重視することをたずねたアンケートで、最も多かった回答は「コミュニケーション能力」。相手の話をしっかり聴いて理解し、自分の考えを伝えることができるようにしておきたい。このほか「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」などが上位にあがっている。「出身校/所属ゼミ/研究室」(3.8%)のような所属に関する回答は少なく、あくまで「本人」が問われているようだ。

## 働き盛りで特に大きくなる賃金の開き

### ● 正社員と非正社員の賃金

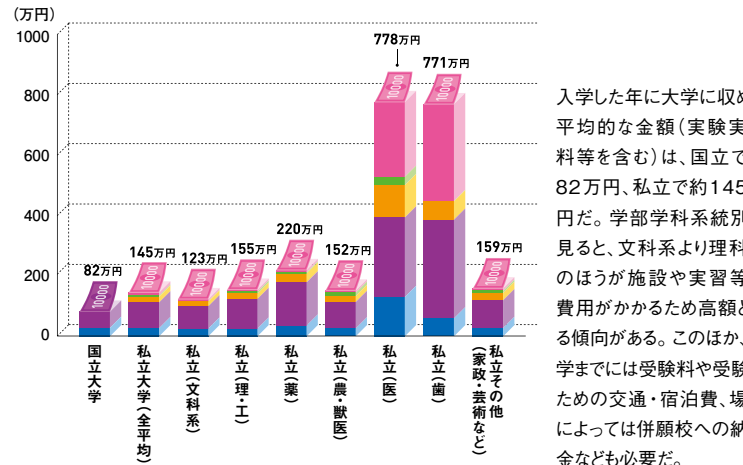


厚生労働省「平成23年賃金構造基本統計調査(全国)」

正社員と非正社員(契約社員・派遣社員など)の1カ月の賃金を比較してみると、年齢によって状況が異なることがわかる。両者の差は若い層では小さいが、年齢が上がるにつれて拡大。50〜54歳を比べると、正社員の収入は非正社員の2倍近い。職に就いた時点だけでなく、長期的にみた収入状況も留意しておきたい。

## これだけ違う。国立vs私立、文系vs理系の学費

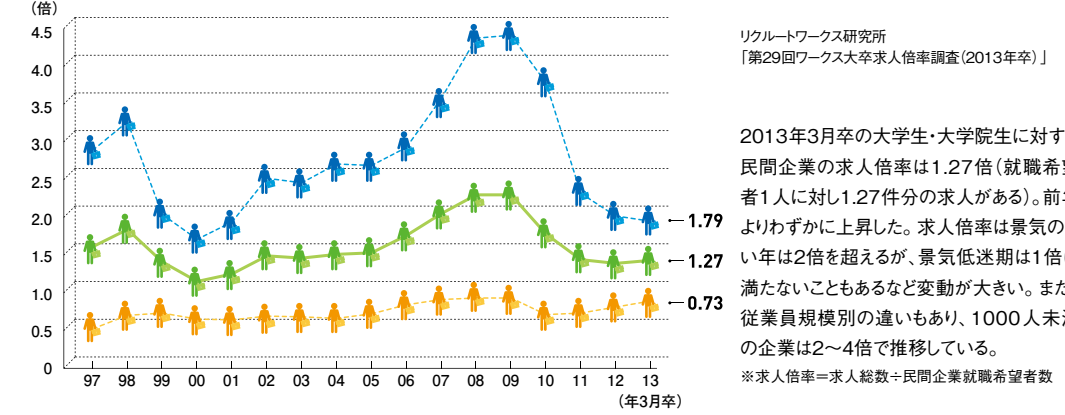
### ● 大学の初年度納付金



文部科学省「私立大学等の平成23年度入学者に係る学生納付金平均額の調査結果」(昼間部) ※国立大学は標準額

## 大卒求人倍率がわずかに上昇。企業規模で動向に差

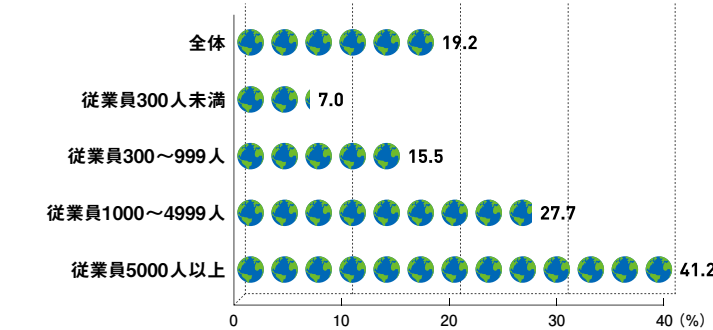
### ● 大卒求人倍率の推移



リクルートワークス研究所「第29回ワークス大卒求人倍率調査(2013年卒)」  
2013年3月卒の大学生・大学院生に対する民間企業の求人倍率は1.27倍(就職希望者1人に対し1.27件分の求人がある)。前年よりわずかに上昇した。求人倍率は景気のよい年は2倍を超えるが、景気低迷期は1倍に満たないこともあるなど変動が大きい。また、従業員規模別の違いもあり、1000人未満の企業は2〜4倍で推移している。  
※求人倍率=求人総数÷民間企業就職希望者数

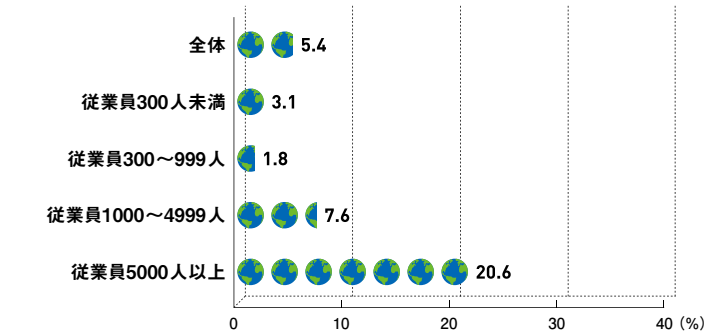
## 広がるグローバル採用。外国人学生を採用する企業も

### ● 日本の大学(大学院)卒の外国人留学生を対象とした新卒採用の実施状況



企業の活動が世界規模に広がる現代、採用面でもグローバル化が進んでいる。2013年卒の新卒採用において、日本の大学等卒の外国人留学生を対象に採用活動を行った企業は約2割。海外の大学等卒の外国人学生を対象では5%程度。大企業ほど積極的だ。

### ● 海外の大学(大学院)卒の外国人留学生を対象とした新卒採用の実施状況



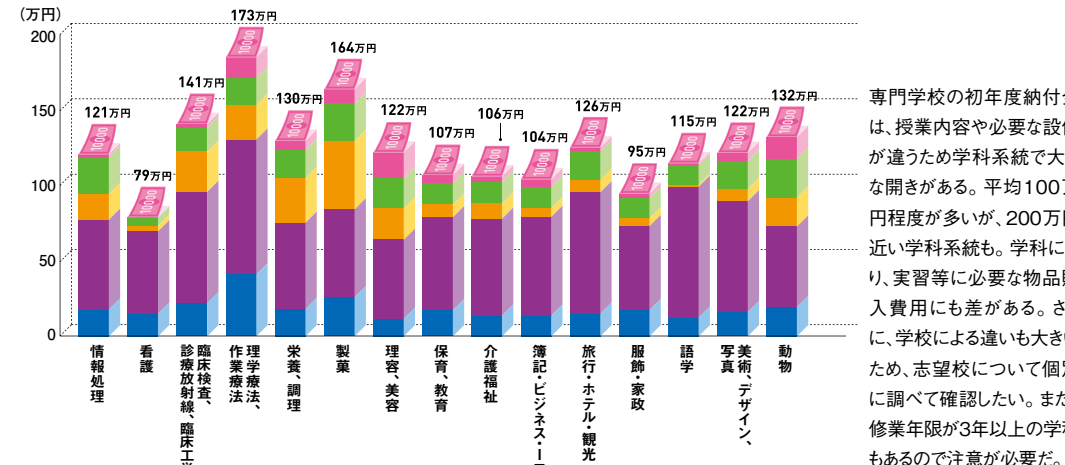
リクルートキャリア 就職みらい研究所「就職白書2013」

# DATA 03

保護者と共にチェック  
**進学費用**  
を見積もっておこう

## 専門分野により学納金に年間約100万円の差

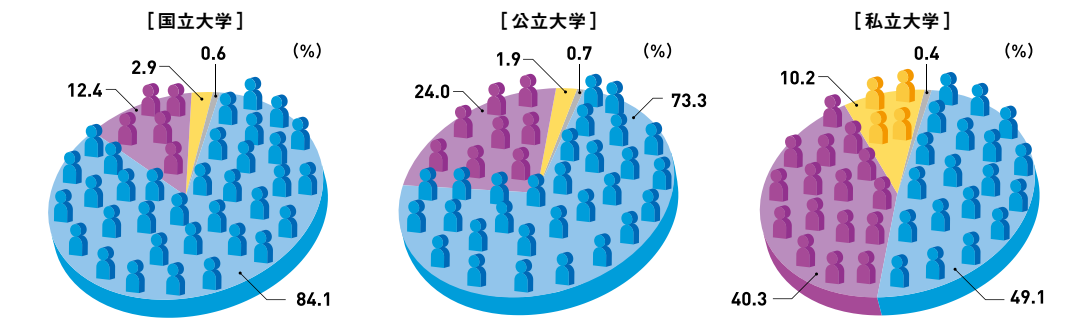
### ● 専門学校の初年度納付金



東京都専修学校各種学校協会「平成24年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(昼間部)より抜粋 ※1万円未満を四捨五入

## 私立大では約半数が、入試時期が早い推薦・AO入試により入学

### ● 入試方式別に見た入学者の割合

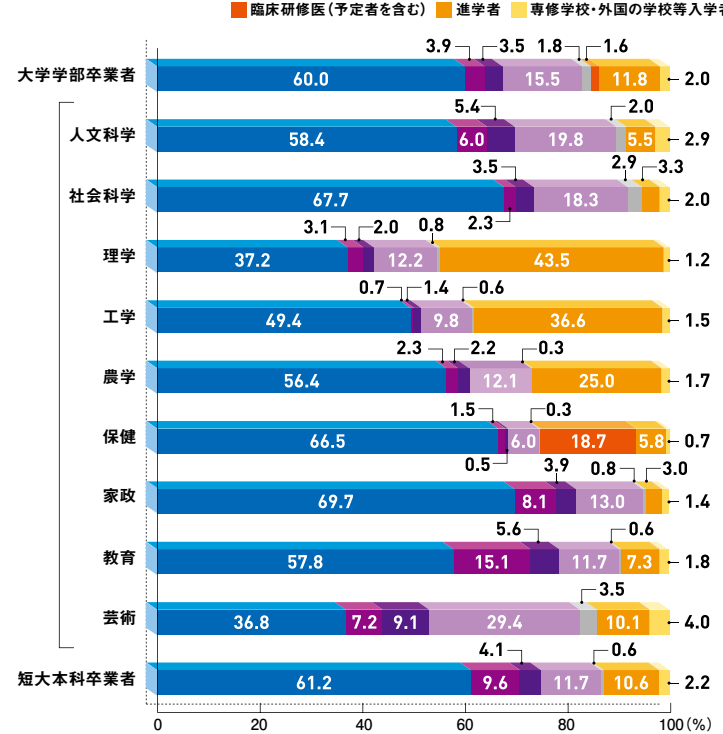


文部科学省「平成24年度国公立大学入学者選抜実施状況」より抜粋 ※「その他」は専門学校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等女子入試など

一般入試での入学者が、国立大学では約8割と多いのに対し、私立大学では約5割。私立は推薦入試やアドミッション・オフィス(AO)入試による入学者の割合が大きい。これらは面接や小論文などにより意欲や適性、高校時代の実績をみるもので、AO入試は夏から、推薦入試は秋から始まる。大学がどんな学生を求めているかによってAO入試の条件や方法は大きく異なるので、早めに志望校の入試方法を調べて対策しておきたい。

## 大卒の就職者は6割割。理系に目立つ大学院進学

### ● 大学・短大卒業後の進路状況



文部科学省「学校基本調査」(2012年3月卒業生について)  
※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職しつづ進学した者を含む)※「正規の職員等でない者」とは、雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者※「それ以外の者」とは、家事の手伝いなど就職でも「大学等への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」でもないことが明らか  
2012年3月大学学部卒業生全体における就職者の割合は、前年より2.3ポイント高い63.9%。正規の職員等に限定すると60%だ。正規の職員等でない就職者、一時的な仕事に就いた者、就職も進学もしない「それ以外の者」を合算すると2割を超える。また、状況は学科系統によって異なる。理系では大学院への進学者が就職者と並んで多い。学ぶ内容によって傾向が異なるので、志望大学の状況や先輩の話も参考にしよう。

## 下宿の私立大生は年間支出236万円

### ● 大学生の年間生活費

| 区分 | 自宅        |           | 下宿・アパート・その他 |           |           |
|----|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
|    | 国立        | 私立        | 国立          | 私立        |           |
| 収入 | 家庭からの給付   | 623,400   | 1,058,200   | 1,186,200 | 1,724,600 |
|    | 奨学金       | 242,300   | 386,500     | 372,200   | 471,400   |
|    | アルバイトほか※1 | 354,100   | 407,300     | 290,900   | 337,500   |
|    | 合計        | 1,219,800 | 1,852,000   | 1,849,300 | 2,533,500 |
| 支出 | 授業料など学費※2 | 569,300   | 1,176,600   | 570,900   | 1,258,200 |
|    | 課外活動費     | 43,100    | 37,600      | 49,200    | 40,000    |
|    | 通学費       | 102,900   | 106,200     | 13,700    | 24,500    |
|    | 小計(学費)    | 715,300   | 1,320,400   | 633,800   | 1,322,700 |
|    | 食費        | 104,900   | 96,800      | 277,100   | 263,300   |
|    | 住居・光熱費    | -         | -           | 511,700   | 478,200   |
|    | その他※3     | 265,400   | 275,500     | 287,200   | 299,000   |
|    | 小計(生活費)   | 370,300   | 372,300     | 1,076,000 | 1,040,500 |
| 合計 | 1,085,600 | 1,692,700 | 1,709,800   | 2,363,200 |           |

日本学生支援機構「平成22年度学生生活調査」(大学学部・昼間部)より算出  
※1:アルバイト、定職収入、その他 ※2:授業料、その他の学校納付金、修学費  
※3:保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常生活費  
日本学生支援機構の調査によると、学費を含めた大学生の生活費(支出)は2000年をピークに減少を続けている。しかしながら、「下宿・アパート等の私立大学生」の年間生活費は約236万円と高額だ。学部や住む地域によってはもっとかかるので、保護者と一緒に確認しよう。

# DATA 02

“入学がゴール”じゃない!  
**大学・短大・専門学校**  
の最新状況を把握しよう

## 医療関係や教員の資格が取れる学科が人気

### ● 志願者が増加した大学学科系統 ● 志願者が減少した大学学科系統

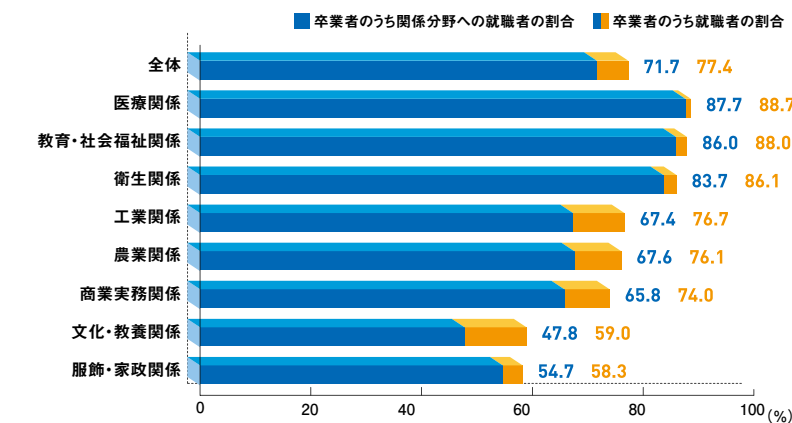
| 順位 | 学科系統     | 08-12志願者増減(人) | 順位 | 学科系統   | 08-12志願者増減(人) |
|----|----------|---------------|----|--------|---------------|
| 1  | 看護学      | 37,532        | 1  | 商学     | -44,910       |
| 2  | 教育学      | 26,006        | 2  | 経済学    | -35,152       |
| 3  | 医学(専門課程) | 22,079        | 3  | 法学     | -34,862       |
| 4  | 医療技術学    | 13,827        | 4  | 経営学    | -23,764       |
| 5  | 栄養・食物学   | 11,709        | 5  | 外国文学   | -10,137       |
| 6  | 保育・児童学   | 11,367        | 6  | 政治・政策学 | -7,717        |
| 7  | 生命科学     | 10,886        | 7  | 社会学    | -7,518        |
| 8  | 心理学      | 10,766        | 8  | 国際関係学  | -4,650        |
| 9  | 情報工学     | 7,021         | 9  | デザイン   | -4,643        |
| 10 | 語学(外国語)  | 6,814         | 10 | 美術     | -3,776        |

リクルート進学総研調べ(2012年度)

2008〜12年度の志願者数の増加が大きい学科系統は「看護学」「教育学」「医学」などで、医療関係や教員の資格が取得できる分野が目立つ。一方で減少が大きいのは「商学」「経済学」など、08年のリーマンショック後の長引く不況が影響し、安定した仕事につながると思われる分野が人気のようだ。年によって変動する人気・不人気にとらわれず、自分の「やりたいこと」で志望学科を選びたい。

## 専門学校卒の医療関係の就職率は9割近く

### ● 専門学校卒業者の就職状況



文部科学省「学校基本調査」(2011年度)

2011年度間の専門学校卒業者に占める就職者の割合は、前年度より2ポイント高い77.4%。単純比較はできないものの、大卒者の就職率63.9%(12年3月卒)を上回る数値となっている。学んだ内容と関連する分野への就職率が高いのも特徴で、特に医療関係や教育・社会福祉関係は就職率、関連分野就職率とも高い。ただし、分野によって状況が異なることも知っておこう。

## 貸与型や給付型など奨学金の種類はさまざま

### ● 日本学生支援機構奨学金制度の概要

| 種類                               | 貸与月額(2012年度入学者)  | 選考   |
|----------------------------------|--|--|
| 第一種奨学金(無利息)                      | 大学<br>【国立】自宅:4万5000円、自宅外:5万1000円<br>【私立】自宅:5万4000円、自宅外:6万4000円                         | 特に優れた学生および生徒で経済的理由により著しく修学困難な者に貸与(学費基準は大学・短大の場合が高校2〜3年の成績が3.5以上、専門学校の場合が同3.2以上、年取・所得上限額の基準もある) |
|                                  | 短大・専門学校<br>【国立】自宅:4万5000円、自宅外5万1000円<br>【私立】自宅:5万3000円、自宅外:6万円                         | 【国立】自宅:4万5000円、自宅外:5万1000円、12万円から選択(12万円を選択した場合に限り、私立大学医歯学課程は4万円、私立大学薬学課程は2万円の増額可)             |
| 第二種奨学金(在学中は無利息、卒業後年利3%を上限とする利息付) | 大学・短大・専門学校<br>3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択(12万円を選択した場合に限り、私立大学医歯学課程は4万円、私立大学薬学課程は2万円の増額可) | 第一種奨学金よりゆるやかな基準によって選考された者に貸与   |